

移動される事故車両

東名高速死傷事件



東名高速でワゴン車以下の懲役もしくは禁錮、または100万円以下の罰金。長くても7年で出てくるとは理不尽すぎる。

そこで気になるのが民事裁判だ。遺族が損害賠償を求めて訴えた。有罪の場合、7年

移送される石橋和歩容疑者



民事裁判で犯人が味わろう

1億数千円自腹の償い

起こした場合、どのような裁判になるのか。「両方を訴えるのが通常のやり方です」とは弁護士の篠原一廣氏だ。

「今回のケースなら、石橋容疑者とトラック運転手の両方に損害賠償を求め、両者にま

めていくら支払いなさい」という判決が下ります。判決後、容疑者とトラック運転手が話し合いで支払いの比率を決めるのです。片方の過失が特に重大なため、責任が10対0になるケースも少なくありませんが、トラック運

転手も前方不注意などを問われ、賠償金の支払い責任が生じると思われます」

亡くなった萩山嘉久さんは45歳、妻の友香さんは39歳だった。賠償額はどれくらいになりそうか。交通事故の裁判に詳しい谷原誠弁

護士に聞いた。「賠償額は何歳まで働くかという前提をもとに算出します。被害者の収入によって異なりますが、今回のケースではご主人は数千万円から1億円超。奥さんは家事労働を仕事とみなされ、数千万円と思われま

す。このケースは微妙です。容疑者はクルマに乗っていたわけではなく、車外に出て危険な行為をした。そのため任意保険と自賠責の対象にならない可能性が高いと思われま

事故ですから、数百万円が上乗せされることも考えられます」

心配なのは保険だ。過失運転致死傷罪でも賠償金は任意保険から払われ、任意保険に入っていない場合は自動車損害賠償責任保険(自賠責)から払われるの

が一般的だ。今回の犯人も保険に救われ、自腹を切らずにすむものだろうか。

「このケースは微妙です。容疑者はクルマに乗っていたわけではなく、車外に出て危険な行為をした。そのため任意保険と自賠責の対象にならない可能性が高いと思われま

保険は下りない

あくまでも仮説ですが、まずはトラック運転手が保険から賠償金を全額払い、そのうちの何割かを容疑者が自分で払うことになると考えられます」(篠原一廣氏)

賠償金で厳罰を下してもらいたい。